

6. 薬学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 18)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 19)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 平成 24 年度に文部科学省補助事業に採択された「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」事業は、薬学部が中心となり新しい大学間連携共同教育プログラムを開発・実践した取組で、事業最終年度の平成 28 年度には、外部評価の提言を取り入れた形で、授業内容のエッセンスを「WEB 講座」として動画配信する事業計画を新たに追加し、e-ラーニングによる学生の学修環境の強化を図った。補助事業が終了した平成 29 年度以降も、薬学部主導で「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」が結成されており、本事業で開発した科目の一部を薬学部の専門教育に組み込むとともに「NICE キャンパス長崎」に登録し、現在も他大学の学生が受講できるよう学修環境を整備している。また「WEB 講座」の動画配信も継続している。なお、本事業は日本学術振興会が行った大学間連携共同教育推進事業評価委員会の事後評価において、構築した教育プログラムや連携・実施体制、補助期間終了後の継続体制の内容が高く評価され、最高評価の S 評価を受けることができた。

〔特色ある点〕

- 両学科 1 年次に薬学・医学・歯学・保健学科の学生 10 名が共修する少人数アクティブ・ラーニングの教養ゼミナール科目「初年次セミナー」を開講し、主として医療関連のテーマについて情報収集、討論、発表させている。さらに薬学科 4 年次には「治療薬剤学Ⅱ」の中で薬学・医学・歯学・保健学科の学生が共修する少人数アクティブ・ラーニングによる「症例検討（終末医療退院時模擬カンファレンス）」を行っている。これらの科目は将来薬の専門家としてチーム医療を担う人材の育成を意識したもので、学修への動機づけとしても位置づけられる。
- 薬学科高学年での特徴ある臨床実習としては、5 年次生の科目「高次臨床実務実習Ⅰ」で長崎大学病院において医学部生と共修で参加型臨床実習を行っており、6 年次には医療過疎地域を多く抱える長崎県の特殊な社会要請に応える教育として、医学部生との共修による「高次臨床実務実習Ⅱ（離島実習）」を長崎県五島市及び新上五島町で実施している。これらの科目は、薬剤師として

チーム医療や地域医療における役割を認識し、医療現場で活躍するために必要な技能や態度、コミュニケーション能力などを養成するためのものである。

- 平成 31 年度入試から薬学科の推薦入試（4名：地域医療貢献枠）を新設しており、応募者は 33 名に達した。なお、推薦入試による入学者の入学後の学業成績は良好である（学年全体平均 GPA:2.92、推薦入学者平均 GPA:3.56）。
- 薬学部の下村脩博士ノーベル化学賞顕彰記念創薬研究教育センターでは、グローバル人材の育成を目的として、学部学生・大学院生及び教員を対象に、毎年グローバル人材育成講演会を開催し、留学した教員や学生の留学体験談を共有している。令和元年 12 月に開催した第 5 回長崎大学薬学部グローバル人材育成講演会には、39 名が参加した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。